

7. コロンビアの非日常 1：お祭りの話 その3

元天理教コロンビア出張所長
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

世界において毎年大規模な伝統的なお祭りが色々な国で開催されている。ラテンアメリカでは、ブラジルの「カーニバル」、メキシコの「死者の日」、ペルーの「インティ・ライミ」などが有名である。

このような伝統的なお祭りに参加したり、それらを見学したりすることは「非日常」の世界に自らを誘い入れる典型的な行為である。コロンビア人は、非日常が日常化するほどお祭り好きの国民なのではないかと思うくらいだ。本稿第5回で言及した「コロンビア五大祭」を見ていきたい。五大祭りとは次の通りである。

- (1) バランキージャのカーニバル (El Carnaval de Barranquilla)
 - (2) 黒と白のカーニバル (Carnaval de Negros y Blancos)
 - (3) 花祭り (Feria de las Flores)
 - (4) カリのお祭り (La Feria de Cali)
 - (5) ペトロニオ・アルバレスの太平洋岸音楽祭
- (1) バランキージャのカーニバル (アトランティコ県バランキージャ市)

起源はいくつもの説があるが、コロンビアを代表する伝統的かつ大きな祭りであることは確かである。バランキージャとは国北部地域の国内4番目の大都市で、カリブ海(大西洋)に面することから、外国からの影響の受けやすい地域である。16、17世紀にヨーロッパの移民たちが持ち込んで、欧州の慣習とバランキージャの民衆信仰である土着の先住民儀式及び(1)アフリカ系の伝統儀式が融合した、という起源説が有力である。

バランキージャのカーニバルはカーニバル(謝肉祭)と呼ばれる如く、毎年復活祭(英語でイースター)に合わせて日付が変更され、四旬節(イエス・キリスト昇天)の40日前の「灰の水曜日」の4日前から開催される。よって毎年カーニバルの期間は変動している(2023年は2月18～21日まで)。カリブ海地域の民衆と文化要素に溢れたこのカーニバルは、フロートや山車、音楽グループを伴った「花の戦い」「ミスカーニバル」から始まる。「花の戦い」とは仮装したグループとフロートの(2)大パレードで、動物をモチーフにした仮装、大きな頭やスーパーヒーロー、アフリカ系の黒人などがこの仮装グループの一部を担う。2008年にユネスコの無形文化財に認定されており、とにかく陽気でエネルギーに踊りまくる。この数日間、街は地元住民と観光客で賑わう。

(2) 黒と白のカーニバル (ナリーニョ県パスト市)

黒は「黒人」、白は「白人」を表し、また様々な文化の融合を強調している。それは、アンデス山脈地域とアマゾン川流域の先住民文化と太平洋岸地域の(3)アフロ系文化である。

このカーニバルはコロンビアにおける人種の伝統、先住民、奴隷制度と独立を物語っている。開始されたのは1546年とも1607年とも言われている。元々このナリーニョ県サン・ファン・デ・パスト(通称パスト)市に発祥したのではなく、ポパヤン(カウカ県首都)の黒人奴隷住人が1日の休暇を要求したことに発する。当時のスペイン国王は勅令によって休日を1月5日とし、喜んだ黒人住人は、ルーツであるアフリカの音楽と共に通りで踊って、その近くにいた白人に墨を塗ったという。その後、1854年にパストにこの文化を伝えたと言われている。1912年には、これに加えて「白人の日」が追加された。県内の町村でも隣県カウカ県などで同時期(毎年1月2～7日)に行われている。2000年9月30日にユネスコ無形文化に認定

された。

(3) 花祭り (アンティオキア県メデジン市)

最近では、インターネット上でのラテンアメリカのお祭りトップ3には、リオのカーニバル(ブラジル)や死者の日(メキシコ)と並んで「花祭り」が必ず入るほどポピュラーなお祭りである。

シジェッタ(スペイン語で大椅子の意味)という担ぐ道具に色とりどりの花を盛り付けてパレードするのが中心的行事である。花を担ぐ人たちのことをシジェテロスという。同時に花飾りのコンクールが行われ、シジェテロスの独創性や技が競われる。この習慣は植民地時代(16世紀～19世紀)に山の村々から人を運搬したことに由来している。開催の期間が長く、2023年は7月28日～8月7日の間行われ、上記のシジェテロスのパレードの他、コンサート、自転車・バスでの花見ツアー、盆栽の展示会まで、見事花づくしであった。この花祭りは1957年から開催されている。

(4) カリのお祭り La Feria de Cali (バージェ県カリ市)

12月25～30日、毎年年末バージェ県の首都カリ市は祭りで熱狂する。カリは「サルサの首都」とも呼ばれ、人が集まればサルサダンスを踊る。5日間仮設の巨大テントでのコンサート、ダンスクラブ、アルコール・グルメ、クラシックカーのパレードが催され、メイン通りではサルサスクールのコンクールを兼ねてのパレードが行われた。数年前には、天理教出張所も協力した日系移民のパレードも行われた。カリのお祭りが初めて開催された年は1957年、メデジンの花祭りと同じ年である。

(5) ペトロニオ・アルバレス音楽祭 (バージェ県カリ市)

これもカリ市で行われるお祭りであるが、上記の4つの「お祭り」とは少し様相が異なり、アフリカ系ラテンアメリカ(アフロ)音楽に特化したフェスティバルである。コロンビアの歴史的文化背景の賜物であると考えられる。植民地時代の初期からコロンビアには西アフリカから黒人が先住民に代わる労働力として入ってきた。彼らは祖国の文化と習慣を伴っていたが、ラテンアメリカと同化した。その一つに音楽がある。楽器においては、マリimba、クラリネット、バイオリン、グアスカ(打楽器の一種)、ボンボ(太鼓)や多種のパーカッションの鼓動が人々の心をも打つのである。

コロンビアの西部のチョコー、バージェ、ナリーニョ県の太平洋岸はアフロ系の人たちの割合が高い。毎年、8月の中旬に6日間行われ、200以上のアーティストがアフリカをルーツとする音楽で民衆を魅了し、白熱するライブが延々と披露される。

上に述べたように、伝統的フィエスタ、カーニバルで陽気に踊ったり、歌ったりするラテンアメリカの風習の中にあって、楽器を入れて歌って踊るお道(天理教)の祭典はどのように映っているのだろうか? 宗教儀礼と理解していても、他にはない「おつとめ」である。次回、このことについて、「諸宗教の集い」と関係させながら述べることにしたい。

[註]

- (1) “5 ferias y fiestas colombianas que debes visitar al menos una vez en tu vida” <https://www.canalinstitucional.tv/ferias-y-fiestas-colombia-top-5-carnaval>
- (2) Medellín en la Feria de las Flores “<https://www.medellin.gov.co/es/feria-de-flores/lo-que-hay-que-saber-de-la-feria-de-las-flores-2023-programacion-eventos-historias-datos-silleteros-y-otros/>”